

〈研究成果の紹介〉

早生甘柿新品種の地域適応性

栽 培 部

1 成果の内容

近年登録された甘柿新品種「すなみ」、「上西早生」、「新秋」、「陽豊」について、本県における地域適応性について検討しました。なお、「すなみ」については、多度町、上野市、紀宝町において現地栽培調査をしました。

「すなみ」

収穫期は、「前川次郎」や「松本早生富有」よりも遅く、「富有」よりも早くなりました。果実の大きさは、上野市産のものが大きく300g以上になり、次いで、多度町産が大きく、紀宝町と農技センター産はやや小玉傾向でありました。なお、各地域産の果実とも、対照品種よりも大果でありました。糖度は、対照品種と同程度かやや低い傾向でありました。

「上西早生」

収穫期と糖度は、「前川次郎」と同程度であり、果実の大きさは、217gでやや小玉傾向でありました。

「新秋」

収穫期は「前川次郎」より約1ヶ月早く、果実の大きさは、222gでやや小玉傾向であり、糖度は「前川次郎」とほぼ同程度でありました。なお、条紋による汚損果が多いのが欠点でありました。

「陽豊」

収穫期と糖度は、「前川次郎」と同程度であり、果実の大きさは、211gで小玉傾向でありました。なお、生理落果が少なく、豊産性でありました。

以上のことから、「すなみ」は大果であり、伊賀と北勢地域での適応性が高く、「陽豊」は豊産性であるので、無受粉栽培向きの品種と思われます。「新秋」は極早生甘柿であるが、汚染果が多くて施設栽培等による改善が必要であり、また「上西早生」は長所が少ない品種と思われます。

2 技術の適応効果と適用範囲

伊賀地域および北勢地域での「すなみ」の一層の産地化が図れます。

「陽豊」は着果性が安定しているので、ほぼ県下全域に適応性があるものと思われます。

3 普及・利用上の留意点

「すなみ」の大果性は適正着果で発揮できるので、早期摘蕾とともに過着果させないように、さらに品質面から早穫りしないよう留意してください。

「陽豊」は結実性が安定しているので家庭果樹の栽培に向く品種と思われます。

(果樹栽培担当 前川 哲男)

品 種	10 月			11 月			12 月	糖度 %
	上	中	下	上	中	下	上	
「すなみ」				多 度 262 g				16.3
				上 野 306 g				16.4
				紀 宝 244 g				15.1
				場 内 231 g				17.2
「上西早生」				場 内 217 g				17.4
「新 秋」				222 g 場 内				16.5
「陽 豊」				場内 211 g				17.6
「前川次郎」				紀 宝 219 g				16.4
				場 内 248 g				17.2
「松本早生富有」				239 g 多 度				17.4
				場内 225 g				16.9
「富 有」				上野 234 g				16.6

図1 収穫時期と果実品質 (H4～8年平均)



「写真」 富有の大果系品種「すなみ」の結実状況